

## 2022 年度事業報告書

2023 年 3 月

助成プログラム名	日本財団「子ども第三の居場所」事業
事業 ID	2022012276
事業名	千葉県における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営支援（2年目）
団体名	公益財団法人 ちばのWA地域づくり基金

## 1. 事業の目標

- 1) 千葉県に2カ所のコミュニティモデルの拠点を設置・運営する団体が、助成期間中に組織基盤強化や事業改善、地域連携促進など伴走支援を行い、助成期間後（4年目）の事業継続と更なる発展ができるようにする。
- 2) 各拠点の自立的な運営を目指す経営能力づくりをサポートしていく
- 3) 関係者の満足度80%以上（拠点スタッフ・利用者・家族にヒアリング）

## 2. 事業実施体制の構築

本事業は、子ども第三の居場所の拠点である、つながるかんでんち（木更津市）およびおひさまの家（東金市）がそれぞれ「子ども第三の居場所」の運営およびイベント開催などを通じて、地域住民はじめ行政、自治会、企業や関係団体との交流促進を図る。ちばのWA地域づくり基金は、運営支援および持続的に事業を営むための種々の支援業務を行って、コミュニティ型拠点の定着を図るものである。

本事業の作業分担表および事業の概念図を表1および図1に示す。

表1 作業分担

拠点・組織の名称	担当者の役職・氏名	主な業務
つながるかんでんち・一般社団法人かんでんち	代表理事 矢部牧子	木更津市の拠点運営
おひさまの家・NPO法人3.11こども文庫	理事 鈴木孝雄	東金市の拠点運営
ちばのWA地域づくり基金	専務理事・事務局長 志村はるみ	運営のための伴走支援

# 「子ども第三の居場所」コミュニティモデル全体イメージ

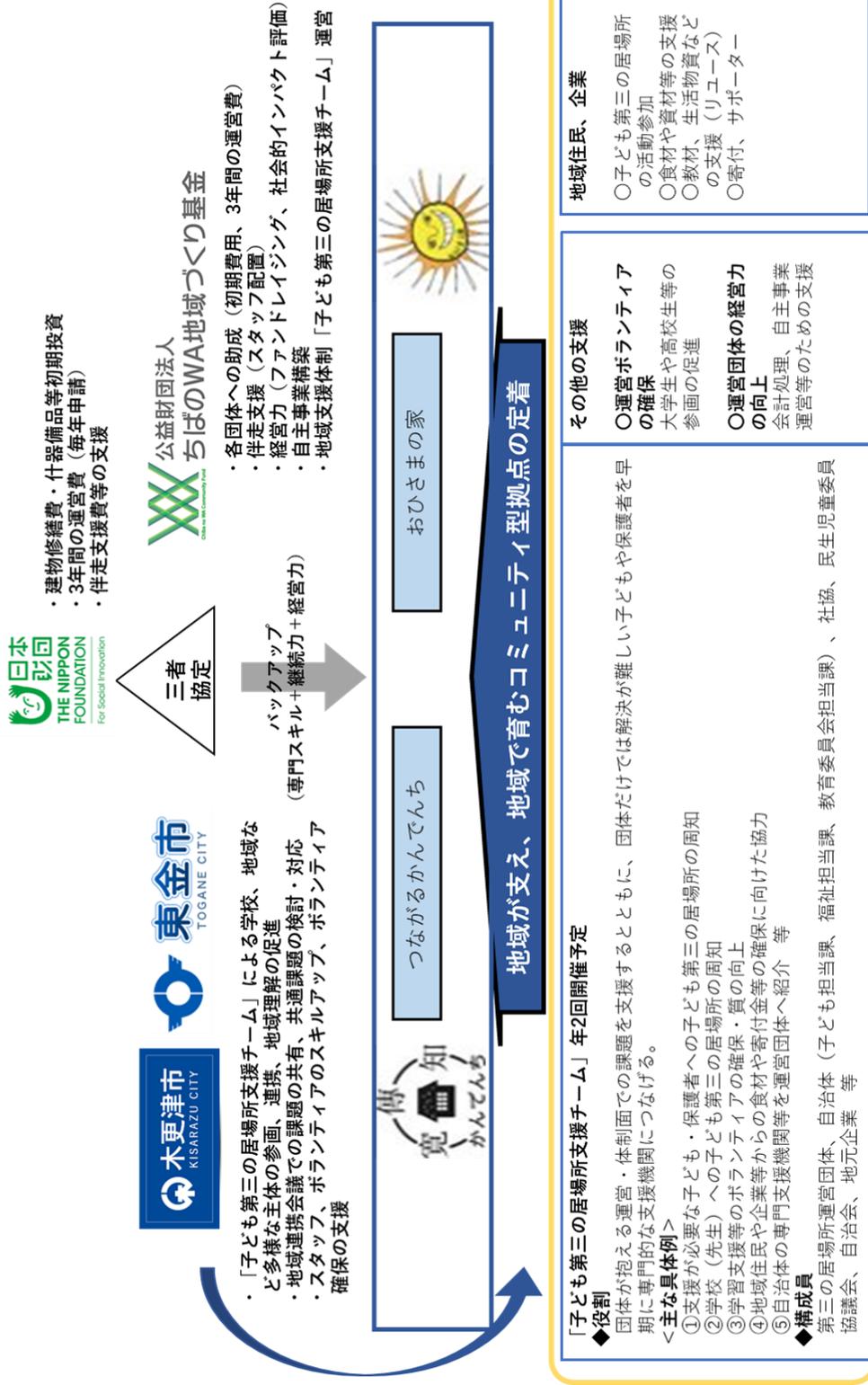


図 1 事業の概観図

### 3. 業務工程

今年度の業務工程を表 2 に示す。

表 2 業務工程

会議等 ( ) 内計画回数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3月	計 (実績)
定期面談 (月次面談 1 回/月)													24
木更津市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
東金市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
地域連携会議 (各 2 回程度)													4
木更津市					○	○	○						3
東金市						○							1
地域研修会 (各 1 回)						①		②	③	④	⑤		5
研修会フォーラム (1 回程度)											○		1

### 4. 事業内容

木更津市および東金市の各拠点における児童の生活支援や学習支援等の居場所「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営支援を実施した。

コミュニティモデルの運営については、木更津市では 2022 年 4 月から開始、東金市では 2022 年 4 月から既存の施設を用いて運営を継続して、拠点の開設工事が完了後の 2022 年 9 月から「おひさまの家」での運営を開始した。

各拠点における市町村と各施設運営団体との連携体制の構築、施設運営の向上および組織改善を図るための支援を行った。これまでの主な会議等の経過は表 2 に、計画と実績との対比は表 3 に示すように事業の実施は当初の計画とおり行うことができた。

#### 1) 市町村と各施設運営団体との連携体制の構築

##### 地域連携会議

「子ども第三の居場所」支援チームを構築し、自治体、学校、保育園、地域住民 (区長、民生児童委員)、社協、企業等を交えた地域連携会議を通じて、事業の周知を図り、活動報告・課題共有・解決策の検討、連携・協力体制構築に係る支援を行った。

併せて、自治体との連携強化として、子どもの支援に関する情報提供、自治体や学校と居場所運営団体の気づきを共有、地域住民への居場所の認知促進、専門的知識、専門家領域のノウハウ提供協力を行うため市役所等の訪問を行った。

##### ○木更津市

地域連携会議として開催した、木更津市の「つながるかんでんち」報告会 (8 月 29 日開催) を日本財団からもご参加頂いて、ちばの WA 地域づくり基金・一社かんでんち共催、木更津市、教育委員会の後援によって開催した。2022 年 3 月のオープンから半年が経過した「つながるかんでんち」について、地域住民や関係機関に向けた報告を行った後、地域が支え地域で育むコミュニティモデルの定着と、地域支援体制のさらなる強化を目指す

すための意見交換を行った。参加者は、行政、教育委員会、小学校、社会福祉協議会、関係団体、地域住民らの33人が参加した。

また、9月と10月には、木更津市社会福祉協議会と子どもの支援に関する連携等について協議を行って、拠点を活用した支援や協力体制について継続して検討していくこととした。

#### ○東金市

主に行政関係対象としたおひさまの家開所式（9月2日開催）では、東金市長、教育長はじめ東金市行政機関および小学校の関係者、日本財団などの35名の参加があった。

同日に開催した地域連携会議では、「おひさまの家」の役割をテーマとしたパネルディスカッションを通じて、東金市における子育て環境の問題点を再確認し、「おひさまの家」の役割や目的について参加者間で共有した。

ファシリテーター：長島美紀（政治学博士、SDGs ジャパン理事）

パネラー

- 植草学園短期大学 教授 田村光子（子ども支援分野が専門、千葉市で実践中）
- 東金市教育委員会教育部学校教育課長 新田篤（前福岡小学校長）
- 東金市市民福祉部子育て支援課長 猪野源広
- 東金市市民福祉部健康増進課母子保健係長 内山明美
- おひさま文庫 鈴木孝雄
- 総括的コメント：東金市教育委員会教育長 石川貢彦

## 2) 施設運営の向上のための支援

定期面談の実施

各団体と毎月定期面談および打合せを行い、進捗状況の確認、業務支援に係る指導・助言を実施した。

## 3) 研修会の開催

地域研修会、研修会フォーラムを通じて、自団体の役割や価値を再認識して、市民参加を促進する組織体質になることで、持続的な組織を構築するための知見が整理された。これにより団体の成果と社会的インパクトを意識したロジカルな事業運営にもつながることが期待される。

地域研修会および研修会フォーラムを以下のとおり開催した。

## ① 地域研修会

各団体同士及び他事例からの学び、ボランティア研修、会計・法人運営関係、資金調達など組織運営力の強化を図ることを目的に連続ワークショップ（計5回）を開催した。連続ワークショップは、各拠点が抱える共通の課題である組織力強化に向けて団体のビジョンを明確にして支援者を増やすこと、資金調達なども含めた活動の持続性を図るための作業を通じて、参加団体間の交流を図った。なお、外部講師として1回目は NPO 法人報徳の会・内田未来楽校、2回目は NPO 法人ワーカーズコレクティブういずから活動や取り組みなどの事例紹介を行って、参加者と意見交換を通じて交流を深めた。

連続ワークショップは、NPO のための組織力強化ワークショップとして、千葉市生涯学習センター大研修室において、以下の日程で実施した。

主なテーマと作業（各回共通時間 13：30～17：00）

- ・ 1 回目 9/29 ビジョンとミッションの整理  
外部講師：NPO 法人報徳の会・内田未来楽校 小出事務局長
- ・ 2 回目 11/1 関係者マップづくり  
外部講師 NPO 法人ワーカーズコレクティブういず 北田理事長
- ・ 3 回目 12/13 ファンドレイジング計画をつくる①
- ・ 4 回目 1/17 ファンドレイジング計画をつくる②
- ・ 5 回目 2/20 研修会フォーラム（成果発表含む）

## ② 研修会フォーラム

上記ワークショップの5回目2/20に参加団体によるフォーラムを開催して、これまでの振り返りを踏まえて、地域（住民、教育機関、支援機関、支援者等）への周知活動、居場所の持続的な運営およびファンレイジング計画の実践について理解を深めると共に団体運営についての意見交換を通じて団体間の交流を行った（写真参照）。

### 【参加団体 8 団体（順不同）】

- 一般社団法人かんでんち（つながるかんでんち）
- NPO 法人 3.11 こども文庫（おひさまの家）
- 一般社団法人いっぽの会
- 一般社団法人 COCO PORTA
- NPO 法人はぐくみの杜を支える会
- 一般社団法人はこぶね
- NPO 法人フリースタイル市川
- 株式会社ベストサポート



(写真)

発表

左：つながるかんでんち

右：おひさまの家



振り返り・討論

左：つながるかんでんち

右：おひさまの家

表 3 計画と実績との対比

会議等の名称	計画	実績	備考
定期面談（木更津市、東金市での月次面談各1回/月）	各拠点12回 （計24回）	計24回	計画とおり実施 各拠点の定期面談を毎月実施した
木更津市	12	12	
東金市	12	12	
地域連携会議	各拠点2回程度 （計4回程度）	4	計画とおり実施 木更津市：8/29、9/28、10/26 東金市：9/2
木更津市	2	3	
東金市	2	1	
地域研修会（各1回）	2	5	連続ワークショップとして5回実施：9/29、11/1、12/13、1/17、2/20
研修会フォーラム	1回程度	1	計画とおり実施 2/20

## 5. 拠点における関係者の満足度について

各拠点において、関係者（拠点スタッフ・利用者・保護者）の満足度を把握するためのアンケート調査を実施した。その結果、拠点スタッフおよび利用者・保護者とも図2に示すとおり、全体的な満足度は本事業の目標である80%以上を達成した。アンケート調査ではスタッフ19人、利用者・保護者59人から回答を得た。

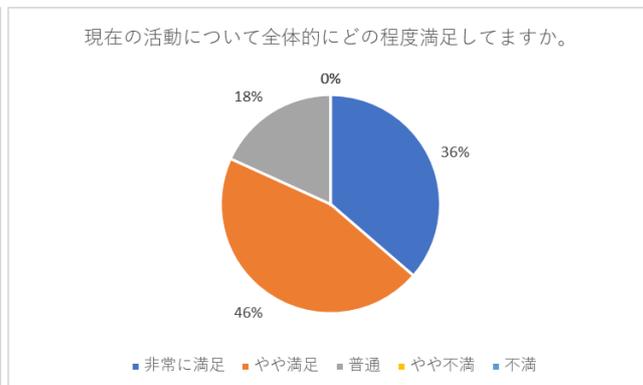
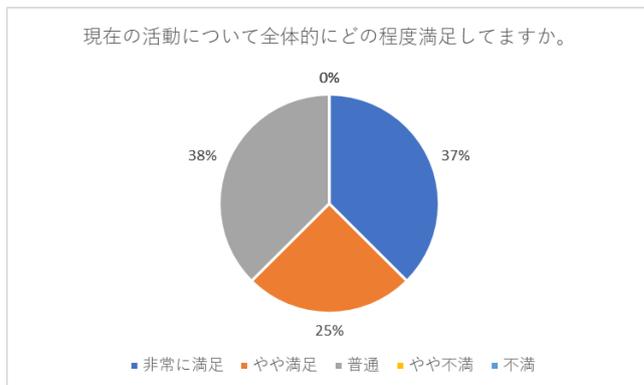
図2 関係者の満足度を把握するためのヒアリング調査結果

※満足度：非常に満足、やや満足と回答した割合

【拠点スタッフ】

つながるかんでんち 満足度：62%

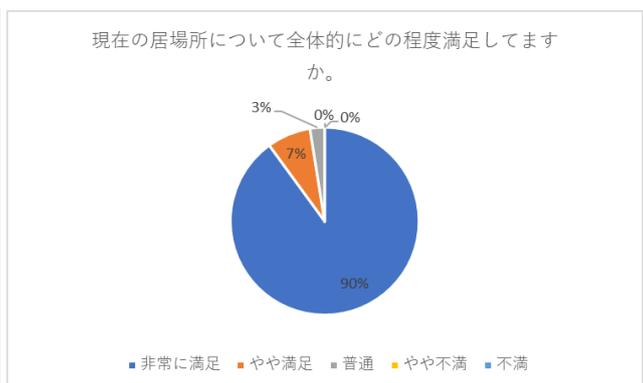
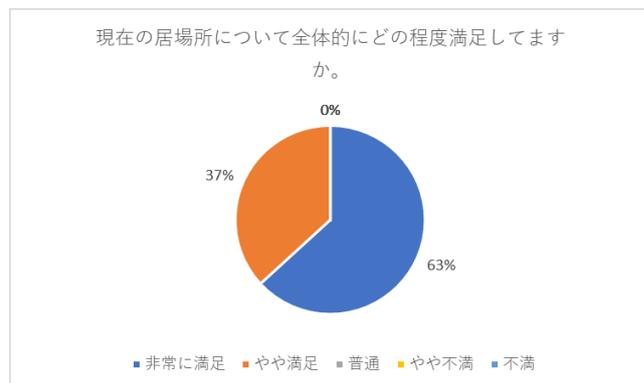
おひさまの家 満足度：82%



【利用者・保護者】

つながるかんでんち 満足度：100%

おひさまの家 満足度：97%



6. 今後の取り組み

各拠点の子ども第三の居場所の運用の充実を図るための支援および組織基盤強化の取り組みを通じて、2025年3月までに木更津市および東金市のコミュニティモデル事業がそれぞれの強みを生かした自主事業づくり等により自立を目指した支援を継続的に実施する。

## 子ども第三の居場所の運営状況について

### 1. 木更津市:つながるかんでんち

#### 1) 子ども第三の居場所の運営

本事業は、生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」を開設・運営して、行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくることで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指すことを目的に実施するものである。

拠点のつながるかんでんちは、原則的に週3回（月・水・木）、15時から18時の間で開設した。拠点では、専門知識のあるスタッフおよびボランティアと共に、学習支援、遊びやイベントなど企画している。特に宿題や画用紙、折り紙によるものづくりの見守り及びサポートや、食育として、おにぎり・豚汁の提供を通じて野菜嫌いの子どもへの食の支援等も行っている。

##### ① スタッフ配置

常勤スタッフ2名、非常勤スタッフ1名、ボランティア数名。ボランティアの分野は、日替わりシェフ、子ども食堂経験者による食担当スタッフ、洋裁、リメイクの専門性を有した高齢者、市民活動、地域活性に取り組む起業大学生、高校生など。

##### ② 基本的な1日の活動の流れ

14時：スタッフミーティング・予定共有・学校への迎え

15時：放課後受け入れ、宿題、個別学習、自由時間。夕食準備

16時30分～17時 夕食

17時30分：片付け、掃除、帰り支度

18時～18時30分 帰宅準備、帰宅

18時30分：スタッフ反省会・フィードバック

#### 2) 主なイベント等の経過

6月

25日 夕涼み会 子ども32人 大人72人、計104人が参加。

26日 イオンモール木更津において、さをり織り体験 コースターづくり

7月 七夕飾り

8月 8月中に洋裁、さをり織、韓国語と料理教室（多文化にふれることと料理体験実施。

参加者6人～8人（保護者含む3～4組）、料理は4組（子どもと保護者）。

15日 港祭り（花火大会）、木更津花火を見ながら木更津高専学生との交流

18日 19日、ヒップホップダンスチーム合宿受け入れ交流

22日 洋裁教室

25日 さをり織教室

9月17日 ワールドクリーンアップ2022に合わせ、「変身ごみひろい」を他団体と共同にてかんでんちで開催。

10月30日 ゴミフェスハロウィンに参加

11月24日 調理実習（ピザづくり）

12月24日 クリスマス会開催

インターネットゲーム&廃材による物づくり会&つながるかんでんち交流会。およびかんでんちごちゃまぜ隊によるダンス大会を実施した。この会には、社会福祉協議会学習支援担当、児童相談所等の関係機関も参加した。

1月 餅つき会、着物&かるたのイベント参加（イオンモール）

2月 節分および25日（土）君津文化ホール わいわいコンサートでのかんでんちごちゃまぜ隊によるダンス発表を行った。

3月4日 地域の防災訓練に参加

21日 木更津市消防署職員による応急対応講習会開催

### 3) 主な成果・波及効果等

①これまで拠点に来所することがなかった若者世代が本事業に共感して活動に参加して、小学生との交流を通じて、かんでんちの活動が周知され地域に広がりを見せている。同時に若者たちからの発想により小学生が参加したイベント活動が活発に行われるようになった。

②拠点において、行政機関、関係機関（市民活動支援センター、地区中央公民館、市のまちづくり協議会、児童相談所など）の職員の方々との交流する機会が増えて、活動の連携が生まれており、徐々に地域での活動が広まっている状況にある。

## 2. 東金市:おひさまの家

### 1)子ども第三の居場所の運営

本事業は、生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」を開設・運営して、行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくることで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指すことを目的に実施するものである。

本事業の実施によって団体が実現しようとする事として、以下の2点を重視している。

- ・誰もひとりぼっちにせず、子ども達を中心に大人たちも繋がった地域子育てコミュニティの場をつくること
- ・子ども達が将来の自立に向け生き抜く力を育む力となる「絵本」や「アート」、「豊かな自然」環境に囲まれた居場所をつくること

拠点のおひさまの家は、週5回（月～金）、15時から18時の間で開設した。なお、夏休みや冬休みの長期の休みのある期間中は、時間延長（8:30～18:00）して運営した。

また、拠点のおひさまの家が完成する8月までの間は、既存の施設で子ども第三の居場所の運営を行った。

#### ① スタッフ配置

常勤スタッフ2名、非常勤スタッフ2名、パートスタッフ9名程度、ボランティア数名。

#### ② 基本的な1日の活動の流れ

- 15時：来館、遊具で遊ぶ外遊び
- 15時半：おやつ、宿題、個別学習
- 16時：外遊び、体験活動
- 18時：後片付け・お迎えの準備、帰宅
- 18時半：部屋の掃除など

### 2) 主なイベント等の経過

4月

- 4日 花見ちらし寿司ランチ会（1年生から6年生まで20人参加）、施設見学者2名参加
- 19日 竹の子掘り（1～2年生6人、保護者2人、スタッフ2人参加）

5月

- 11日 おひさまの家上棟式（餅投げ）（子ども約35人・大人約15人参加）
- 13日 福岡小学校授業参観（スタッフ2名）
- 26日 誕生日会（4月・5月生対象で、18人参加）
- 25日 サツマイモ苗の植付け作業（午前中：こども園の園児約60名、午後：放課後クラブ1年生3名）
- 30日 梅狩り（1年生から6年生15人参加）

6月24日 麦刈体験（東金市立福岡こども園の園児11名）

8月

日本財団の子ども第三の居場所に係る寄付助成事業で三宅島ツアーおよび夏休みキャン

プのイベントを行った。

1～4日 三宅島自然体験ツアー 6年生9人参加（付添スタッフ3名）日本財団支援金により実施。

2～3日 夏休みおひさまキャンプ おひさま文庫の敷地内にテントを張り親子キャンプ（年長園児・1～5年生、夜のお楽しみ会12名、うち宿泊3名、大人7名）日本財団支援金で実施。

8日 かき氷で納涼会（小学生約15名）

9日 ワークショップ木工（15名）

9月

2日 おひさまの家開所式 主に行政関係対象に開催し、東金市長ほか35名出席

3～4日 お披露目会（主に地域住民対象）、2日間で73名が来場。来場者の6～7割が地元住民、残りは保護者とこども文庫関係者

5日～10月25日 蟹江杏子展（おひさまの家1階）

10月

4日 東金市立福岡こども園の子ども達 恒例のサツマイモ掘り（約30名）

12日 お茶会① 裏千家講師の協力によりおひさまの家で開催。子ども達10名参加。

21日 サツマイモ芋掘り、低学年7名参加

29日 お茶会② 親子で参加する茶会、子ども3名、大人6名、3家族

31日 ハロウィン コロナ渦でも近隣の施設や個人宅の協力で今年も実施。子ども20名、大人2名参加

11月

2日 生け花教室 五十鈴古流の講師の協力により子ども達と「連花」（10名参加）

5日 おひさま文庫4周年記念イベント「杏さんといっしょにおひさまを描こう」、こども30名、大人25名、9家族で支援対象の3家族も参加

5日～25日 こどもアート展（おひさまの家1階）開催

19日 お茶会③ 子ども7名、大人3名

12月

10日 英語の歌遊びと英語で絵本の読み聞かせ、協力「子ども英語ラボ・パーティー」、10名程度参加。

12日 生け花教室（第2回目）

17日 餅つき会+おひる食堂（雑煮）、ビンゴ&ドッジボール大会、クリスマスコンサート。午前中：恒例の餅つき会 約120名（こども54人、大人65で過去最高）。クリスマスコンサートでは、市内小学校教諭グループによるクリスマスソングメドレーを子ども達と一緒にいった。

22日 ワークショップ「みんなでショートケーキを作って食べる」、1～6年生16名参加

28日 大掃除、子ども達が分担してスタッフと一緒に掃除。

1月

15日 おひさまマルシェ with 子ども達 子ども達主体の規格で、フリマやワークショップ、豚汁・焼きそばなど 参加者50名（子ども34名、大人16名、内家族で参加

10 世帯)

18 日 おひさまお茶会④ 参加者 10 名

21 日 ワークショップ「青藍さんと一緒に書初めをしよう！」＋おひる食堂 参加者 26 名（子ども 19 名、大人 2 名、スタッフ 5 名）

2 月

3 日 生け花教室 参加者 10 名

11 日 ワークショップ山口健児さん「泥絵具で描こう・掛軸に仕立てよう」 参加者 33 名（子ども 22 名、大人 4 名、スタッフ 7 名（講師含））

15 日 おひさまお茶会⑤ 参加者 10 名

23 日 ワークショップ「味噌造り」＋おひる食堂 参加者 27 名（子ども 19 名、大人 7 名、スタッフ 1 名）

3 月

26 日 おひさまマルシェ&おひる食堂

27 日 丸山製作所工場見学 参加者 33 名

29 日 東金市主任児童委員部会視察研修受け入れ

### 3) 主な成果・波及効果等

- ① 拠点が完成した 2022 年 9 月以降、子どもの利用者数が増加して、子どもの利用者数は目標 15 名を達成した。
- ② 多彩なワークショップなど新しいイベントが加わり、子ども達に多様な体験を提供できるようになった。
- ③ 居場所を通じて、地域住民との繋がりが広がり、おひさまの家の事業を理解・支援してくれる方々が増えた。
- ④ 市役所子育て支援課や児童相談所からの相談が増えてきた。また、学校・行政機関からの期待も高まっている。

### ○添付資料

別紙 1 つながるかんでんち活動の様子

別紙 2 おひさまの家 2022 年度活動報告

別紙 3 子ども第三の居場所満足度調査

以上